

11番（伊藤 守一君） 先の東日本大震災でお亡くなりになられた方、ご不明の方に対しまして、心よりお悔やみ申し上げます。また、津波の被害と福島第一原発事故で仮設住宅でお住まいの方につきましても、心よりお見舞い申し上げます。

全国からの支援で、1日も早くの復興をお祈り申し上げます。

また、町からの支援は、物資は当然ながら職員も、水道課をはじめ、早くの復興支援に延べ5名の職員が出向いていただき、大変ご苦労さんでございました。

また、台風12号で被害を受けられた紀宝町へ、月曜日より職員2名、給水車1台を派遣され、素早い対応に感謝申し上げますところでございます。

本定例会におきまして、2点の質問をいたしますので、ご答弁をよろしく願い申し上げます。

まず1点目ですが、木造耐震診断経費の耐震補強事業について伺います。

先の東日本大震災の被害の大きさは、三陸沖からの津波が第一の原因と考えます。しかし、1995年1月に発生しました阪神淡路大震災では、都市直下型、マグニチュード7.3で、全壊家屋が10万4,900戸余り、それからお亡くなりになった方が6,434名と発表されております。お亡くなりになった方の約5,000名、80%が窒息、圧死ということで、家屋の下敷きになり、死亡されたと報告されております。

昨今の報道によりますと、東海地方では東海・東南海・南海地震が発生すると言われております。町におきましても、平成21年度に地域防災計画を見直して、さまざまな活動を推進されております。避難所の耐震化もできております。

避難所に向かう通路に若干の問題点があると指摘がございます。また、一人で動けない方の支援の問題等いろいろございますが、私は一番気にかかる点につきましては、1981年（昭和56年5月）以前に建築された住宅でございます。

防災安全課で、木造住宅耐震診断経費で耐震事業を推進いただいておりますが、耐震診断は極めて少なく、平成22年度が20件、平成21年度が25件となっております。その中で耐震補強工事、耐震評価0.7未満を1.0以上にする補強工事に入った方につきましては、昨年度で3件と伺っております。安全・安心を求めらば、補強工事の補助額をもっと引き上げ、耐震化率を向上していただきたいと思いますが、町長のお考えを伺いますので、よろしく申し上げます。

関連の2点目でございますが、笹尾城山地区では、造成時に盛り土された部分と思いますが、あちこちでアスファルトがひび割れております。大震災時には地すべり等で崩壊の心配をされる方がおみえであります。そういう危険性があるかないかというのを一度調査されるお考えはないかを伺いますので、よろしく申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 伊藤議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず、木造住宅耐震化事業について、答弁をさせていただきますが、伊藤議員もよくご存じいただいているとは存じますが、事業概要と現在の状況を少しご説明を申し上げます。

本事業は、平成15年から、国、県の補助を受けて実施いたしております。

対象は木造住宅で、昭和56年5月31日以前に着工されました、いわゆる旧建築基準法に基づく住宅でございます。

耐震診断を受けていただき、地震に対する強さを示す評点が0.7未満の住宅を、評点1.0以上に補強する場合に補助させていただくものでございます。

当初は、補助を受けていただくに当たり、所得要件等があったり、耐震補強工事にかかる設計部分の補助が充実されていませんでしたが、現在は所得要件等も時限的に外されておりますし、設計補助の独立、簡易補強工事の補助項目の追加で、より活用いただきやすくなっております。

さらに本年7月には、三重県の方針として補助金の上乗せ、リフォームに関する補助項目の追加が、時限的に実施されたところでございます。

しかしながら、本年度は東日本大震災の影響を受け、国の補助枠の追加が難しいとのことであり、三重県の補助制度をうまく活用できない状況に、県内の市町が苦慮をいたしております。

本町の実績といたしまして、平成15年から本年8月までに、耐震診断実施件数379件、耐震補強工事实施件数、9件でございます。

耐震診断を実施されたにもかかわらず、なかなか耐震補強工事に結びつかない理由といたしまして、議員ご指摘のとおり、自己負担の問題もありますし、個々の方々の今後の生活設計に起因する部分もあると考えております。

本町といたしましても、今後は国・県と歩調を合わせながら事業を推進し、町民の皆様、自らの生命と財産を守っていただく有効な減災対策であることをPRし、耐震化率向上を図りたいと考えております。

また、本年度から住宅の一部屋、主に使われる部屋等に設置いただくと、より有効と思われませんが、耐震シェルター設置補助事業も実施いたしております。

耐震シェルター設置は、耐震補強工事に比べて、工期、費用面において、短期で安価に抑えられるメリットもございます。

個々の生活設計に合わせ、選択いただけるものでございますので、あわせて推進してまいりたいと考えております。

次に、笹尾城山地区の件でございますが、ご質問にもございますように、笹尾城山地区では、原因は定かではございませんが、コンクリート等のひび割れがあると聞き及んでおります。

本町といたしましては、地区内の公共施設の状況と、そして欠陥がある場合は、

その原因とを調査をいたしたいと考えております。その結果を受けて、さらに調査が必要ということになりましたら、三重県の指導もいただきながら検討をいたしたいと考えておりますので、ご理解賜りますよう、よろしく願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 耐震診断を受けた方で、370件はそのままということで、やはり耐震評価0.7以下と理解するんですけども、その辺をどうにか、今日の新聞を見ておりましたも、津市ですか、30万円上乘せの180万円まで補助をするということが決定されて、新聞報道がございましたけども、防災設備の必要な項目、いろいろあるんですが、その中でもこちらのほうに回して、370件を、もっと耐震化率を引き上げてほしいなというところは、平成56年5月以降の、どちらかというと瓦葺きの家ですか、あってはならんですけども、東海地震なんかのマグニチュード7とか8になれば、私は被害が大きいと考えますので、県の動向を見てと回答がございまして、一般会計からでも繰り入れて補助額を上げていただいて、皆さんにPRしていただいて、耐震化率を上げていただきたいと思いますけど、再度よろしく願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 耐震化につきましては、対象家屋が千数百戸ございます。その中で、今申し上げました370件何がしというのは、耐震診断を受けた方でございます、耐震診断は無料でございます、ぜひ皆さんにお受けをいただきたいというふうなことを思っておりますけれども、これすら、なかなか進んでいかないということがございます。もう少しPRしながら、まず耐震診断を受けていただきたいなというふうなことを思っております。

そして耐震補強に関しましては、今申し上げましたように、大変数が多ございまして、全部が全部失格ということではないので、その辺は考慮させていただきますが、1件にいくらという補助をしていくということになりますと、かなりの費用も発生をいたしますので、その辺も財政のほうとも話を進めながら検討をさせていただきたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 津市の30万円アップは、朝、新聞を見ただけで、中身はわからないのですけども、一般会計から出ているのか、国・県の補助で済むのか、その辺のところはわかりませんか。ちょっとお聞きします。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） ちょっと今のところわかりかねますので、調べまして、後日ご報告させていただきたいと思っております。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 東員町は津波の被害がないということで、やはり

都市直下型の地震に対応する耐震化率を、私は、これからも補助額を上げて、どんどん皆さんにPRをして、耐震化率を上げていきたいと思いますので、その辺また、本当によろしくお願い申し上げます。

2点目のアスファルトのひび割れにつきましては、造成より、早いところで40年かな、新しいところで30年たっておりますので、その間、確かにひび割れはあるんですけども、特に変わった点がないということで、しっかりした地盤かなと考えておるところでございます。

その辺は町長言われるように、調査も進めていただいて、やっていただくということで、あと、町におきましては、幹線道路から順番に整備していただいております。今年も笹尾2丁目、3丁目ですかね、500メートルでしたかね、という当初予算が上がっていたと思います。順番にやっていただいているんですけども、やはり末端の路地に入りますと、すごいところがございます。その辺につきましては、多分、自治会の判断で、ひどいところは申請されると思いますので、順次整備をお願いしたいと思います。その辺はどうでしょうね、藤井建設部長。

議長（山本 陽一郎君） 藤井建設部長。

建設部長（藤井 浩二君） お答えを申し上げます。

議員ご指摘をいただきました外周道路につきましては、計画的に現在進めさせていただいております。当初予算でご説明したとおりでございます。

また、中に入りました街路につきましては、自治会長からご連絡をいただいた路線につきましては調査をいたしまして、その都度、補修もさせていただいておりますが、掘削をして掘り下げてするというのは工事費がかかりまして、なかなか要望におこたえできないところも多くあります。今後はそれらも含めまして、計画的に舗装してまいりたいと考えております。

よろしくお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 部分的には計画的に結構なんですけど、やはり緊急を要するところにつきましては、早急に詰めていって整備をお願いしたいと思いますので、ひとつよろしくお願います。

本題の2件目でございますが、北勢線について、質問させていただきます。

まず、8月23日の深夜の大雨による対応でございますけども、その当時は楚原と阿下喜間が不通になっておりまして、朝、私らは6時20何分にEメールで不通というのが入りましたね。大泉駅から代行運転ということが。しかし7時25分に大泉駅から乗った方が楚原へ着いて、全然動かないと。説明もないもので、また大泉に戻ったと。バスも出ないので、親戚を呼んで阿下喜まで行ったということで、その時の三岐さんの対応を伺いたいのですが、張り紙をしたのかどうか、場内アナウンスをかけたのかどうか、総務部長に伺いますので、よろしくお願申し上げます。

す。

議長（山本 陽一郎君） 日置総務部長。

総務部長（日置 直人君） 北勢線のご質問について、お答えをいたします。

先ほど議員、8月23日の深夜と言われましたですけども、8月22日の深夜でございますので、よろしく願いいたします。

8月22日の深夜の局地的な豪雨によりまして、阿下喜・麻生田駅間のいなべ市北勢町東村で、いなべ市道の法面が、高さ5メートル、幅5メートルにわたりにまして崩れました。そのため、土砂が線路に流れ込む恐れがあるということから、23日の始発から楚原・阿下喜駅間での運転を見合わせまして、バスによる代行運転を行いました。

三岐鉄道の対応といたしましては、23日の午前1時半ごろ、道路管理者でありますいなべ市さん、それからいなべ警察署に連絡をされまして、午前5時過ぎに、沿線市町及び関係機関に、楚原・阿下喜駅間を不通として、その手前の大泉・阿下喜駅間での代行バスによる運行を行う旨の連絡をされました。

始発から大泉・楚原・麻生田・阿下喜駅及び代行バスの各停留所に案内係を配置をしました。また、大泉駅には、改札付近に代行バスの案内文を掲載をされております。

また、下り列車が大泉駅に到着した際に、電車内で運転士がお客様に対しまして、「この電車は楚原駅までしか行かず、麻生田・阿下喜駅においでのお客様は大泉駅から代行バスに乗りかえてください」と声かけをしたと伺っております。

緊急時の対応でありますけども、ご質問にもありましたように、北勢線を利用されるお客様に対し、ご迷惑をおかけしたことは事実でございます。

今後はより一層、周知を徹底するよう、指示をさせていただきました。

ご理解賜りますよう、よろしく願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 大泉駅に掲示板を設置していただいたのですね。それは利用される方が朝ということで、慌ててみえたかなと私は思いますけども、運転士さんのお声かけもあったと今言われましたけども、私の聞いた範囲では、何もそんな話はなかったと、聞いた聞かないで終わってしまうんですけども。

これは私はなぜ上げたかということ、次の質問になるんですけども、この8年間、トップの思いはわかるんですけど、全員野球で経営を一生懸命やろうという姿は、私は見ていて少なかったなという考えでございますので、行き違いがあったと思うので、報告をさせていただいたわけです。

次は町長に伺うんですけども、先ほども藤田議員からもお話がございましたけども、北勢線につきましては、平成14年に55億円の支援の話がございまして、3期以上の議員は知っておりますけども、大変悩んだ案件でございます。

その当時は穴太・六把野・北大社の駅を通過してもいいので、やめるという議員さんもみえました。その辺は一人当たり5,000円近く、1人で割ったらですよ。1億2,100万円です、その当時は。今少し下がってますけども、決断をさせていただいたという経過がございますけども、私もそれなりに当時は、よし、10年やなという腹づもりで賛成させていただきました。

しかし、町長の先ほど8月4日の新聞ですね、これはこれとして、8月23日の鈴木知事との一対一の対談で、ちょっと表現が変わったなと思うんですね。三岐鉄道から今年3月、東員町、桑名、いなべ市の3市町に継続支援の正式な申し入れがあったと。それでここで一番最後なんですけど、鈴木知事は、ちゃんと調整に入らせていただきますといったところで、そこで多少、2市1町ありますので、僕の考えからいったら、町長の考えは県の補助があったら考えるよというイメージで、これを読んでいたんですけど、その辺は町長、いかがですかね。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 私としましては、県の補助があろうがなかろうが、我々の市町での対応は変わらないんだろうなと思います。

その意味は、結論を出すというか、態度を決めるのに1年ぐらい、すなわち1年半たてば、どうするか形ができてなければいけないので、決めるのに1年ぐらいしかないという中で、今、藤田議員の質問にも答えさせていただきましたけども、運営協議会幹事会において協議をしておりますけれども、何せ2市1町で協議をしておりますので、意見がピタッと合えば問題はないんですが、それぞれの市町で考え方が違ってきて、それを調整していくのが協議会なんですけど、その中でもし協議が整わなかった場合は、時間もありませんので、県として仲裁役、これは広域行政でございますから、県の役目ではないでしょうかということ、知事にお聞きをさせていただいたということで、金をよこせと言っているわけではございません。補助金よこせというものでもございませんので、ご理解をいただきたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 伊藤議員。

11番（伊藤 守一君） 平成14年に支援するのを決定して、苦痛な思いで税金を投入させていただいたというところで、もう10年と私は思っておりますので、その辺は町長と考えが違うかわかりませんが、あとの2市が支援をしていく、していかなんというのは、これから1年しかないんですけど、どう言ったらいいのかな、私は今のところはもう10年で、この話は切りななやと。しかし投資した穴太駅、東員駅の話もございますので、その辺もまた難しい話かと思っておりますので、議会も協議会に入っておりますし、町長のほうも動きがあれば報告していただいて、次また、ここに立つことができたら決断させていただきたいと思っておりますので、その辺、話し合いをよくとってほしいということをお願いしまして、何かありましたら、よろしく申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 今、議員ご指摘いただきました件に関しましては、たしか6月議会に鷺田議員にご指摘いただいた内容と同じかと思っておりますが、その旨は、この運営協議会に反映をさせてまいりたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。